

科学技術社会研究所 第 44 回研究会概要

日時：平成 27 年 3 月 16 日(月) 15:00 - 17:00

場所：目黒区下目黒住区会議室（第 2 会議室）

1. 「研究不正と科学社会 - 科学・技術・社会・国家」：菅沼（15:00～16:10）

初めに、STAP 細胞の件や東大の分子細胞生物学研究所の件など日本でも研究不正の問題が顕著になり、また複雑化してきている状況について紹介があった。次いで、過去の世界的な研究不正事件に関して資料に沿って説明があった。告発後に紆余曲折の 10 年を経て不正の証拠は無いとの上訴審判が下されたボルチモア、イマニシ・カリ、オトゥールの事件、モンテニエらの主張の正当性が認められたエイズウィルス発見論争、NHK の特集番組となった有機超伝導体に関する論文ねつ造事件、116 番と 118 番の新元素発見に関する虚偽報告事件などについてである。架空の実験結果を報告してしまう心理についての解説もあった。

時間不足のため、資料にあった STAP 細胞問題や研究不正が起きる背景などについての説明と議論は次回に持ち越しとなったが、参考文献と関連ウェブサイトについて説明があった。

2. 「腰部脊椎管狭窄症手術後の体験記」： 本会会員（16:15～16:55）

昨年末に行った腰部脊椎管狭窄症を直すための手術の効果等について資料に沿って話があった。手術直後には新たな痛みなどが生じ、退院直前の 4 週間後になってもかなり残っていた。しかし、更に 2 か月たった現在では大分改善され、主要な問題であった間欠性跛行症の症状はほぼ無くなった。残っている腰痛も今後軽減するものと期待している。ただし、しびれの解消やバランス感覚の完全回復は難しそうである。他の患者の様子との比較などから、よい予後のためには早めの手術が必要のようだとのことであった。

この発表に関し質疑が行われ、腰部脊椎管狭窄症の症状の詳細、原因、腰痛の原因と推定される椎間板ヘルニアとの関係、筋力による補強などについて議論された。体験記としてまとめることを勧める意見も出された。

以上